

# 日本経団連首脳、起業家4氏と懇談

## 事業立ち上げの経緯や課題 大手企業への要望など聴取

さまざまな分野のベンチャー企業経営者と日本経団連首脳が意見を交換する「起業家懇談会」が二月二十七日、東京・大手町の経団連会館で開かれた。六回目の今回は、ベンチャー企業四社(ナノキャリア、ユーケーテック、ナノテック、シニアコミュニケーション)の社長を招き、ベンチャー企業が抱える課題や大手企業への要望など、率直な意見を聴取。日本経団連から、奥田碩会長はじめ出井伸之・評議員会副議長ら首脳が、ベンチャー企業と大手企業との連携のあり方などについてアドバイスした。

懇談会では、高原慶一(一弘社長(形状計測・再成形機の開発、製造)、ナノテック・中森秀樹社長(DLCコーティング装置・評価試験装置の製造販売、受託成膜加工)、シニアコミュニケーション・山崎伸治社長(アクティブシニアマーケットの専門コンサルティン)の四氏が、事業立ち上げの経緯や抱える問題、大手企業に望むことなどについて意見を述べた。

新事業を起すに当たって、最大の課題は資金力と販路の開拓。出席したベンチャー四社とも創業当初に苦心した経緯から、大手企業に技術提携だけでなく、資本提携も含めたコラボレーションを求めた。また、大手企業のベンチャー対応窓口について、「担当者から情報が上層部に伝わりにくい」「担当者の権限が限られている」「他企業での実績を重視しすぎる」といったことに対して懸念を示し、アイデアやノウハウをもったベンチャー企業でも、いわゆる「ガラスバレー(死の谷)」に陥ってしまうといった現状を訴えた。

また、奥田会長は、事業を発展させていくためには、技術とマネジメンのバランスが大事であることを指摘し、マネジメント能力のある人材の投入をアドバイスした。

### 日本経団連の 起業家懇談会

日本経団連の起業家懇談会は、日本経団連幹部と、さまざまな分野で実績をあげている起業家が、新規事業創出や経済活性化のための方策などをめぐって意見交換を行う場として、新産業・新事業委員会が二〇〇〇年十月に設置。

過去五回の懇談会で、十五のベンチャー企業代表者から、企業立ち上げの経緯や運営、実績、課題などについて意見を聴取した。

また、〇二年四月には

今回懇談会に出席したベンチャー企業は、二月六日開催の第三回起業フォーラムでプレゼンテーションを行った企業のうちの四社。



懇談の最後に高原委員長は、大企業が持つベンチャー・キャピタル制度の活用、ベンチャー企業と大企業との技術・資本、販路などを含めた連携のあり方などについて、新たなビジネスモデルを考えていかなければならぬことを指摘。

また、奥田会長は、事業を発展させていくためには、技術とマネジメンのバランスが大事であることを指摘し、マネジメント能力のある人材の投入をアドバイスした。